

Suzuki Y, Nakada K, Kashiwagi H, Yanaga K. High Ubc 10 protein expression as a marker of poor prognosis in esophageal squamous cell carcinoma. DDW 2007. Washington DC, May.

- 19) Ishibashi Y, Kashiwagi H, Suzuki Y, Omura N, Nakada K, Kobayashi K, Kawasaki N, Tuboi K, Matsumoto A, Urashima M, Yanaga K. Detection of significant prognostic factors using gene-expression profiling in patients with esophageal squamous cell carcinoma. DDW 2007. Washington DC, May.
- 20) Nishikawa K, Hanyuu N, Yuda T, Tanaka Y, Hayashi T, Kawano S, Suzuki H, Miyoshi I, Mizuno R, Iwabuchi S, Matsumoto A, Suzuki Y, Yanaga K. Intraoperative screening of anastomosis by endoscopy may lead to "Zero" perioperative anastomotic complication in digestive surgery. DDW 2007. Washington DC, May.

IV. 著 書

- 1) 柏木秀幸. III. 消化器疾患 A. 食道 1. アカラシア
b. 外科治療. 菅野健太郎, 上西紀夫, 井廻道夫. 消化器疾患最新の治療 2007-2008. 東京: 南江堂, 2007. p. 81-4.
- 2) 柏木秀幸, 石橋由朗. 消化性潰瘍による出血・穿孔. 田尻久雄, 斎藤大三, 北野正剛編. 胃の臨床: 食道・胃十二指腸病変の診断と治療. 東京: 日本メディカルセンター, 2007. p. 363-71.
- 3) 矢永勝彦. 14. 生体ドナー. 日本肝臓学会, 日本肝移植研究会監修. 肝移植診療ガイドブック. 東京: アークメディア, 2007. p. 92-4.

V. その他

- 1) 小菅 誠, 小川匡市, 渡部通章, 衛藤 謙, 横山正人, 矢永勝彦. 両側卵巣・肝・子宮転移をきたした異時性消化管重複癌の1例. 日臨外会誌 2007; 68(3): 625-39.
- 2) 小菅 誠, 小川匡市, 渡部通章, 衛藤 謙, 横山正人, 矢永勝彦. 播種性骨髄癌症による播種性血管内凝固症候群に対して MTX/5-FU 療法が奏功した横行結腸低分化型腺癌の1例. 日臨外会誌 2007; 68(4): 943-7.
- 3) 鈴木 裕, 浦島充佳, 大島伸一, 森岡恭彦. 【PEGの今とこれから】 PEG およびその維持・管理における第一線の現状 造設医, 担当医, 施設管理者, 患者・家族, 看護師・介護士へのアンケート調査から. 消化器内視鏡 2008; 20(1): 30-5.

呼吸器外科, 乳腺・内分泌外科

教授: 森川 利昭	呼吸器外科
教授: 内田 賢	乳腺・内分泌外科
准教授: 秋葉 直志	呼吸器外科
講師: 福島 久喜	乳腺・内分泌外科
講師: 黒田 徹	乳腺・内分泌外科
講師: 武山 浩	乳腺・内分泌外科
講師: 鳥海弥寿雄	乳腺・内分泌外科
講師: 木下 智樹	乳腺・内分泌外科
講師: 佐藤 修二	呼吸器外科
講師: 中西 浩三	呼吸器外科

教育・研究概要

I. 呼吸器外科

研究の柱は, 胸腔鏡手術を中心とした低侵襲手術による呼吸器外科手術の適応拡大, 肺癌に対する病態の把握と適切な外科手術法の選択, 胸腺腫を中心とした縦隔疾患に対する手術法の改良, 3D-CT の外科手術への応用などの新しい診療技術の臨床応用などからなる。

① 胸腔鏡手術による呼吸器外科手術の適応拡大
胸腔鏡手術は侵襲が小さいことから, 従来の開胸手術と比較して術後の QOL が良好であるうえ, 従来の手術適応の拡大が期待できる。我々はより低肺機能などリスクの高い疾患や病態に対して完全胸腔鏡手術の適応拡大を図っている。

② 肺癌に対する病態の把握と適切な外科手術法の選択

肺癌のうち腺癌は病態が多様であり, 適切な手術法に検討が必要である。我々はこれらの基礎的検討に基づき, 胸腔鏡手術を応用することにより, 適切な手術法の確立と成績改善を目指している。

③ 縦隔疾患に対する手術法の改良

縦隔は解剖学的に深部にあり, アプローチの良好な胸腔鏡手術のよい適応と考えられるが, 未だ知見の集積が不十分である。我々は胸腔鏡手術を改良し, 胸腺腫を中心とした疾患に対して本手術を応用する臨床研究を開始した。

④ 新しい技術の臨床応用

3D-CT は胸腔内の立体的な解剖を直感的に捉えることができる。本法を胸腔鏡手術に応用することにより, 俯瞰が比較的困難な胸腔鏡手術において全体の解剖を予測することができ, 手術の安全に寄与するほか, 個別の解剖の変異に対応することができる。

このほかロボットの臨床応用についての知見を累積している。

II. 乳腺・内分泌外科

1. 乳癌縮小手術における腋窩リンパ節郭清の省略

乳癌縮小手術において腋窩リンパ節郭清省略のため、センチネルリンパ節を放射性同位元素と色素法を用いた描出能の臨床的な検討を行っている。特に、術前化学療法を施行した症例にも適応があるかを研究している。

2. アナストロゾール使用患者における、アレンドロネート及びアルファカルシドールの有用性の検討

本研究は、閉経後乳癌患者に対するアジュバンド療法（アナストロゾール使用）の際に発生する骨粗鬆症の発生頻度を検討すると共に、発生した骨粗鬆症患者に対し、骨粗鬆症治療薬であるアレンドロネート及び、アルファカルシドールによる治療を行い、各療法の臨床的有用性を、疼痛、骨量、骨折、骨代謝マーカー、腫瘍マーカーを指標として確認することを目的とする。

「点検・評価」

呼吸器外科

胸腔鏡手術を中心とした手術方針が確立し、手術症例数も安定している。手術の内容は教育・研究施設にふさわしく多岐な疾患に及び、適応は標準的な手術から他の施設では手術を行えない高リスク症例にまで広がっている。これらの手術は極めて安全に行われており、更なる困難症例にフィードバックされている。数々の臨床研究を施行または準備中であり、これらの進行により胸腔鏡手術を応用した新しい呼吸器外科学大系の構築を目指している。

乳腺・内分泌外科

1. 術前化学療法を施行した症例にも、これまでの症例と同様にセンチネルリンパ節の感度、特異度が確認できた。
2. アナストロゾール使用患者の疼痛の頻度は高いが、骨量、骨折の発生頻度は低い。また骨代謝マーカーは有用である。

研究業績

I. 原著論文

- 1) Kadoya M, Kondo S, Hirano S, Ambo Y, Tanaka E, Takemoto N, Morikawa T, Okushiba S, Katoh H. Surgical treatment of celiac-splenic

aneurysms without arterial reconstruction. Hepatogastroenterology 2007; 54(76): 1259-61.

- 2) Uchida K, Yamashita A, Iwase K, Kamiya K. Screening ultrasonography revealed 15% of mammographically occult breast cancer. Breast Cancer 2008; 15(2): 165-8.
- 3) Uchida K, Toriumi Y, Kawase K, Tabei I, Yamashita A, Nogi H. Percutaneous endoscopy-guided biopsy of an intracystic tumor with a mammary ductoscopy. Breast Cancer 2007; 14(2): 215-8.
- 4) Akiba T, Inagaki T, Takagi M, Kobayashi S, Morikawa T. Resection of intrathoracic chest wall fat necrosis with video-assisted thoracic surgery. Jikeikai Med J 2007; 54(3): 724-8.
- 5) 森川利昭. 【癌診療ガイドラインが臨床現場に与えた影響】 肺癌. 日外会誌 2007; 108(5): 237-41.
- 6) 森川利昭. 【外科領域における各種メッシュ（人工繊維布）・フィルムの応用】 吸収性人工繊維布の応用 a) 肺・気管支手術. 外科 2007; 69(10): 1150-3.
- 7) 秋葉直志, 安江英晴, 滝沢信一郎, 清水光行, 森川利昭. 心不全を呈し緊急手術で救命しえた心嚢内気管支原性嚢腫の1例. 日呼外会誌 2007; 21(4): 608-12.
- 8) 高木正道, 秋葉直志. 胸腔鏡下手術にて切除した胸腔内迷走神経より発生した神経鞘腫の1例. 日呼吸会誌 2007; 45(6): 499-502.
- 9) 秋葉直志, 安江英晴, 稲垣卓也, 森川利昭. 大血管手術後に気胸再手術を行った Marfan 症候群. 日呼外会誌 2007; 21(5): 724-8.
- 10) 野木裕子, 田部井功, 川瀬和美, 鳥海弥寿雄, 福島久喜, 鈴木正章, 小林 直, 内田 賢. 【術前薬物療法の break through】 EGFR 陽性乳癌はトリプルネガティブ乳癌の予後をさらに低下させる. 乳癌の臨 2007; 22(5): 376-80.
- 11) 大竹節之 (北海道大学), 森川利昭, 加賀基知三, 樋田泰浩, 木下桂一, 近藤 哲. 広範囲胸壁切除を要した再発デスモイド腫瘍の1例. 日呼外会誌 2008; 22(2): 198-201.
- 12) 川瀬 寛 (北海道大学), 宮本正樹, 木下桂一, 樋田泰浩, 大竹節之, 加賀基知三, 平野 聡, 森川利昭, 近藤 哲. 人工肺管理下における気管支形成術により救命し得た小児外傷性気管支断裂の1例. 日呼外会誌 2008; 22(2): 180-5.
- 13) 鹿野高明 (KKR 札幌医療センター), 高橋 豊, 長谷龍之介, 森川利昭. 漏斗胸を合併した Congenital Cystic Adenomatoid Malformation of the Lung (CCAM) の3歳女児例. 臨小児医 2007; 55(1-2): 25-8.
- 14) 白日高歩 (福岡大学), 大松広伸, 楠本昌彦, 森川利

昭,「GGO病変(限局型)」の診断と治療. 呼吸 2007; 26(7): 608-18.

II. 総 説

- 1) 秋葉直志. 進歩した完全胸腔鏡下肺癌手術. 柏市医師会報 2007; 10(秋): 11-6.

III. 学会発表

- 1) 森川利昭. 肺癌治療の最前線—PETの情報をいかに生かすか. PETサマーセミナー2007. 大津, 8月.
- 2) 森川利昭. 胸腔鏡手術の安全対策. 第30回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会. 長崎, 8月.
- 3) 野木裕子, 田部井功, 川瀬和美, 鳥海弥寿雄, 福島久喜, 内田 賢. 進行・再発肺癌に対する治療戦略 炎症性肺癌の治療戦略. 第69回日本臨床外科学会総会. 横浜, 11月. [日臨外誌 2007; 68(増刊): 365]
- 4) 野木裕子, 田部井功, 川瀬和美, 鳥海弥寿雄, 内田賢, 森川利昭. 乳癌術前化学療法後に腋窩郭清を安全に省略できる患者は存在するか? 第107回日本外科学会定期学術集会. 大阪, 4月. [日外会誌 2007; 108(臨増2): 513]
- 5) 尾高 真. 胸腺腫に対する胸腔鏡下胸腺摘出術. 第124回成医会. 東京, 11月.
- 6) 尾高 真. 肺癌に対する胸腔鏡手術の治療成績. 第73回呼吸器疾患研究会. 東京, 10月.
- 7) 尾高 真. 肺気腫を伴う肺癌症例に対する胸腔鏡手術の検討. 第107回日本外科学会定期学術集会. 大阪, 4月. [日外会誌 2007; 108(臨増2): 326]
- 8) 尾高 真. 肺癌に対する胸腔鏡下肺切除術—手術手技と治療成績. 第48回日本肺癌学会総会. 京都, 11月.
- 9) 尾高 真. 胸腺摘出術の評価と更なる低侵襲化への試み. 第24回日本呼吸器外科学会総会. 横浜, 5月.
- 10) 尾高 真. 肺癌に対する胸腔鏡手術の役割—ハイリスク症例に対する低侵襲手術. 第24回日本呼吸器外科学会総会. 横浜, 5月.
- 11) 松平秀樹, 矢部三男, 稲垣卓也, 山下 誠, 朝倉潤, 平野 純, 尾高 真, 佐藤修二, 秋葉直志, 森川利昭. 当院における胸腺腫に対する胸腔鏡手術. 第24回日本呼吸器外科学会総会. 横浜, 5月.
- 12) 秋葉直志, 稲垣卓也, 森川利昭. 肺癌手術の術前における肺動静脈・気管支3D-CT作成の有用性. 第24回日本呼吸器外科学会総会. 横浜, 5月.
- 13) 松平秀樹, 稲垣卓也, 平松美也子, 平野 純, 尾高真, 中西浩三, 森川利昭. 術前に同定困難であった内胸動脈からの異常動脈を伴う右肺中葉のCPAM (Congenital pulmonary airway malformation) に対する胸腔鏡下手術の1例. 第20回日本内視鏡外科学会. 仙台, 11月.
- 14) 松平秀樹, 矢部三男, 金子健二郎, 前田剛志, 尾高

真, 佐藤修二, 森川利昭. 当院における胸腺腫に対する胸腔鏡手術. 第24回日本呼吸器外科学会. 横浜, 5月.

- 15) 松平秀樹, 金子健二郎, 前田剛志, 矢部三男, 尾高真, 森川利昭. 胸腔鏡下肺部分切除における触診法を用いた腫瘍同定法の有用性. 第107回日本外科学会定期学術集会. 大阪, 4月.
- 16) Matsudaira H, Hiramatsu M, Inagaki T, Hirano J, Odaka M, Nakanishi K, Morikawa T. Vats lobectomy for T2 lung Cancer. 11th World Congress of Endoscopic Surgery. Yokohama, Sept.
- 17) 野木裕子, 田部井功, 川瀬和美, 鳥海弥寿雄, 小林直, 鈴木正章, 内田 賢. EGFR陽性乳癌はTriple Negative群の予後をさらに低下させる. 第15回日本乳癌学会学術総会. 横浜, 6月.
- 18) 田部井功, 野木裕子, 川瀬和美, 鳥海弥寿雄, 内田賢. Testicular Feminization Syndromeに発症した乳癌症例. 第15回日本乳癌学会学術総会. 横浜, 6月.
- 19) 田部井功, 中原 貴, 大山晃弘, 橋本尚詞, 立花利公, 石渡 勇, 石田祐一, 矢永勝彦, 石川 博. ヒト羊膜幹(未分化)細胞の肝細胞への分化と肝不全ラットへの移植によるその機能評価. 第25回日本ヒト細胞学会. 東京, 8月.
- 20) 鳥海弥寿雄. 医療におけるリスクマネージメントと乳癌診療最近の知見. 第19回東京臨床外科医会. 東京, 7月.

V. その他

- 1) Morikawa T. Lectures in Australia by professor Morikawa. Advances in Video-Assisted Thoracic Surgery: Japan Experience. Brisbane, Sydney, Melbourne, Nov.
- 2) Morikawa T. Improved fibrin glue technique for general thoracic surgery. 10th Anniversary Scientific Meeting of the International Society for Minimally Invasive Cardiothoracic Surgery (ISMICS). Rome, June.
- 3) 森川利昭. (ハンズオンセミナー: 呼吸器外科A: 鏡視下肺葉切除)インストラクター. 第60回日本胸部外科学会定期学術集会. 仙台, 10月.
- 4) 森川利昭. 講師. 第11回呼吸器外科学会関東・東京地区胸腔鏡セミナー講習会. 大宮, 6月.
- 5) 森川利昭. 肺癌と低侵襲手術. 第5回釧路外科癌フォーラム. 釧路, 5月.